

ロシア解説

「正義の暴力派と無差別暴力派」といったような抗争がより頻繁化し、残念ながら国際政治・経済の不透明化・混迷化が増している。

こうした国際情勢のなかにおいて、ロシアは今後どう舵をとるのであるのか。欧米諸国と話し合いを重ねながら、うまくやっていく。あるいは、欧米諸国とは袂を分ち、中国等と非欧米諸国グループを構築し、是々非々でやっていく。または、ソ連時代のようなロシア独自グループを構築し、独自の路線を歩む。いずれにしても、ロシアが王道を歩み、健全で、愛される世界の押しも

「これまで、ロシアを中心に、「BRICS」諸国の経済の概況と相互関係について述べた。その趣旨は、「BRICS」諸国が潜在力を活かし、その持続的発展を図り、国際経済から期待される応分の貢献を継続することが世界にとっても望ましいと考え、その達成のためのヒントを得たい」ということ。

しかし世界情勢は変転著しく、ロシアをみても、ソチオリンピックの開会を待たずに顕現化した「ウクライナ問題」を主因に、そのビジネス環境はよくない方向へと動き出した。東西冷戦時代が終わりに、知見に基づきより好ましい国際秩序が構築されるのではなく、「ブロック化のなかの孤立」、「集団安保のなかの自衛」、「国際的主流と非主流」、「正義の暴力派と無差別暴力派」といったような抗争がより頻繁化し、残念ながら国際政治・経済の不透明化・混迷化が増している。

「BRICS」の雄となるロシアの夢と課題

「しほむBRICSの夢」

真偽の検証(ロシアを中心に)

第7回

押されもせぬリーダー国のひとつになって欲しいと思

さて、たまたまウラジオストクで開催されたロシア地銀協主催「Round Table: Russia and APEC」(2014年6月4〜7日)と題した国際会議に出席した。「ロシアの銀行と中小企業」がテーマなので、興味を惹かれたからだ。実際、ウクライナ問題を抱え、時期がよくないとの懸念もあったが、思惑とは違い、知事を団長とする北海道企業・団体の商談会、また北海道と北海道銀行のウラジオストク共同駐在員事務所開設披露パーティーなどのイベントも盛り込まれ、なかなかの盛況振りであった。特に、北海道の魅力をストックリーナー杯に映し出している知事の発表や北海道銀行のロシア人役員、ロシア商業銀行のソリッドバンクに勤める日本人行員の発表などを目の当たりにし、ロシアビジネスの時代の変化を垣間みる思いがした。

私は、「ロシア地銀と日本地銀の交流の将来をどうみるか」と題し、15分の発言の機会をもらった。共存共栄を目指すロシア地銀協主催の会議でもあり、若干礼を失するかも思われたが、次のような個人的意見を述べた。

第1、ロシア地銀の将来は、ロシア経済の潜在力の大きさや、世界の銀行、特に日本の地銀の歴史をみても、また、40年以上に上る小生のロシアビジネスの体験からみても、極めて明るいと考えられる。だが「ただし書き」がつく。

第2、それは、地銀がリーダー役となり、自ら中小企業を育成し、繁栄に導くことを実践し、より効果的な実現のために、国や自治体、あるいは銀行や経済団体

や企業、大学や居住者等も動員するビジネスモデルを自ら構築するといったことを実現するという条件だ。

第3、日本の事例だが、第二次大戦後、灰燼に帰し、何もかも失った。中小企業も壊滅し、再度育成する暇も力もない状況であった。しかし地方銀行をはじめとする金融機関が、政府の助けも借りながら、中小企業の力となった。そして1954年頃から1973年頃までの長期にわたる高度経済成長を支える大きな力となった。

第4、現在、日本の中小企業は、企業数の約99%、従業員数の約70%、銀行からの企業借入残高の40%、製造業創出付加価値額の約60%で日本経済を支えている。ただしロシアの場合、15人以下がマイクロ企業、15人超100人以下が小企業と分類され、日本の中小企業の定義とは異なることに留意する必要がある。こうしたロシアのマイクロ・小企業が銀行から金を借りるとしたらどうなるか。あるロシアのかなり名の知れた商業銀行のケースで、2013年9月に実行した貸付の事例。金額4百万ルーブル、表面金利年18.23%、期間5年、約定毎月返済条件で、表面金利18%、実質21.5%となる。こうした厳しいビジネス環境の改善を「地銀とマイクロ・小企業が一体となって改善していくことが将来の共存共栄のための前提」であると考

えたい。

第5、本日この意義ある銀行の国際会議でも感じることだが、「日本の銀行はいくら投資をする用意があるのか」といったアウトサイド・インの発想が強く、残念ながらインサイド・アウトの発想が弱いように思える。地銀が地元企業を育て、発展させる努力を続け、国や自治体から支援も得ながら、共存共栄を図る。これが地銀の生き延びる道であると考えられる。

議長のコメントはなく、次の講演者の名が呼ばれた。今回は、ロシアの銀行とマイクロ・小企業について数字面で語ってみたい。

(文責: 国際通貨研究所客員研究員 菅野哲夫)